

社会教育クローズアップ

十勝管内 PTA 研究大会 幕別大会で「説明」を行いました

〈望ましい学習習慣・生活習慣の確立に向けた家庭と地域との連携の推進〉に向けて

本号では、7月15日に行われた、令和6年度十勝管内 PTA 研究大会（幕別大会）・子どもの望ましい生活習慣・学習習慣定着研修会で行った「説明」について御紹介します。

今回の幕別大会では、同町出身で平昌オリンピック金メダリストの**高木 菜那 氏**を講師に迎え、当日の参加者は200名以上となりました。その中で、望ましい学習習慣・生活習慣の定着に向けて、さらに子どもたちをネットトラブルから守るためにと題し、管内の状況等を交え、説明を行いました。

「説明」の内容（掲載資料は説明スライドの一部抜粋です）

望ましい生活習慣や学習習慣の定着に向けた子どもとの関わり方

【家庭での環境づくり】

- 基本的な生活習慣
- 家庭でのコミュニケーション
- 自尊感情・規範意識
- 地域や社会に対する興味・関心

【子どもとの関わり方】

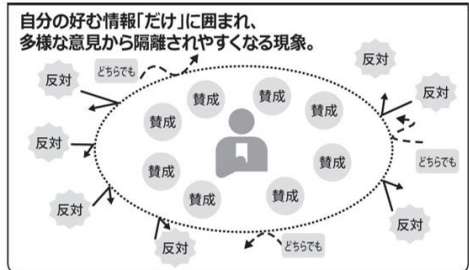
①ほめる	②見守る	③決める
がんばってきたこと、挑戦しようとしたことを認めてほめて、子どものやる気を育てる。	子どもが家庭学習の計画を立て、取り組む姿を見守り、応援して、子どもの自主性を育てる。	スマートフォンやゲームをする時間の約束を家族と一緒に決め、一日の時間を大切にすることを育てる。

家庭での環境づくりと子どもとの関わりによる
望ましい生活習慣・学習習慣の定着

望ましい学習習慣・生活習慣の定着に向け、「十勝の児童生徒は運動好きが多い」「1日1時間以上学習する児童生徒の割合が少ない」などの現状を確認しました。その上で、各家庭で子どもたちの良い点、改善が必要な点を話し合い、子どもたちと一緒に決めて、その取組を見守り、ほめることで、自主性や時間を大切にする意識が育まれます。参加者からは、「保護者から子どもに伝えやすい内容だった。」「子どもと一緒に考えていきたい。」という感想が寄せられました。

読書活動は、「人生をより深く生きる力を身に付けるために欠かせないもの（子どもの読書活動の推進に関する法律）」です。説明では、インターネットでの情報収集における弊害の一つである、「フィルターバブル現象」について触れ、時間をかけて図書館や書店を回ることが、思いがけない本との出会いや興味関心の幅を広げるきっかけとなることを紹介しました。また、学校、家庭、地域が連携して読書を推進できる体制として、図書館、福祉事業所、書店が連携する「幕別モデル」も取り上げました。

フィルターバブル現象



（文部科学省ウェブページによる。一部改変。）

子どもたちの使い方

友達との交流、情報の共有にネットを利用

- ▶ 人間関係維持のために自分の日常について書き、友達の書き込みをチェックできるサービス
- ▶ 画像や動画を投稿、共有できるサービス

★「参加型」「発信型」利用が中心

▶ 大人とは使い方/考え方が異なっている

「子どもたちをネットトラブルから守るために」では、現代社会において欠かせなくなったネットサービスの利用について、大人と子どもでは、使い方や考え方が異なること、あらゆるトラブルの中でも子どもの心身に直接関わるものを優先して対処すること等を紹介しました。「使わせない」ことは現実的ではなく、子どもと話し合い、ルールを決め、見守り、ほめることで、子どもが親に相談しやすい環境をつくることができます。

【発行・お問合せ先】

北海道教育庁十勝教育局

北海道教育庁十勝教育局教育支援課社会教育指導班（皆川・福原）
住所：〒080-8588 帯広市東3条南3丁目
電話：(0155) 26-9243（直通） 平日 8:45～17:30
E-mail：fukuhara.natsumi@pref.hokkaido.lg.jp